

分野：(1) 小児・成人ぜん息に関する調査
 (1)-② ②高齢ぜん息患者の療養状況に関する問題点の解明とその改善のための効果的な治療法の策定
 申請課題名：高齢ぜん息患者の療養状況に関する問題点の解明とその改善のための効果的な治療方法の策定

調査研究代表者氏名：鈴木 真穂

1 評価項目						
5点:大変優れている(A判定) 4点:優れている(B判定) 3点:普通(C判定) 2点:やや劣っている(D判定) 1点:劣っている(E判定)						
	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
(1) 環境保健対策の推進への貢献度	1人	3人	1人	0人	0人	4.00
(2) 研究成果目標の達成度	0人	2人	3人	0人	0人	3.40
(3) 研究計画の妥当性	1人	4人	0人	0人	0人	4.20
(4) 研究内容の独自性	1人	2人	2人	0人	0人	3.80
(5) 社会・経済に対する貢献度	1人	2人	2人	0人	0人	3.80
個別評価(第3評価):(1)(2)(4)(5)の平均						3.75
(6) 総合評価(第2評価)	1人	2人	2人	0人	0人	3.80
全体評価(第1評価):(1)~(6)の平均						3.83
2 記述評価						
委員 A	良好な研究結果を得ていると思われる。 今後、GLに記載されたものの利用がどうなっているか、また修正すべきことはないか、利用度が低ければその理由と修正に取り組んでもらいたい。					
委員 B	私の評価対象ではないとされている。 少なくとも発表時までの解析可能な対象者についての解析結果の報告をする必要があったと考えられる。					
委員 C	質問票の結果の解析とそれに基づく治療フローに新たな知見が乏しい。					
委員 D	・研究成果(第12期であるが)をしかるべき国際誌に公表できたことは評価される。 ・非高齢者から高齢者ぜん息フェノタイプ進展様式を明らかにする成果を期待したい。					
委員 E	本邦における高齢者喘息の実態が明らかにされ、臨床現場に即した医療的アプローチが提示された。					
委員 F	高齢者ぜん息への医療に貢献する研究であると評価するが、作成された「高齢者ぜん息質問票」と「医療提供のためのフロー」の妥当性検証のための研究計画立案の目標が十分に達成されていないため、今後の展開に期待したい。					